

札幌 皮膚病理 研究所 NEWS



2003年9月号

今月の症例



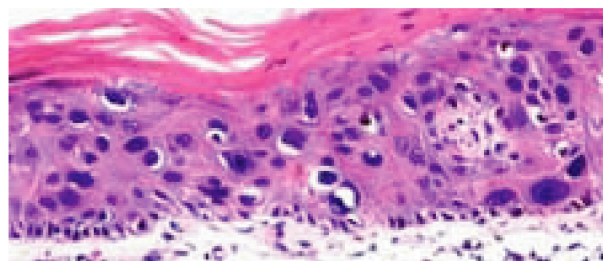
Bowen's disease

85才 女性 左大腿

臨床診断：脂漏性角化症
病理組織診断：Bowen's disease



不規則な表皮の肥厚を認め、弱拡大でも表皮細胞の核のクロマチン増量が確認できる。真皮網状層上層には弾力線維の日光変性(solar Kelastosis)はない。



表皮細胞には著明な核の大小不同とクロマチン増量が認められ、これらの細胞は分化傾向と極性を失って表皮全層に増殖している。しかし真皮網状層への浸潤は認められない。

開催セミナーのご案内



皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座

手術切除されることの多い良性と悪性の皮膚腫瘍の病理組織所見を中心に解説し、手術方法や切除範囲を考えるための情報を提供します。

東京会場 2003年10月 5日(日)
大阪会場 2003年11月16日(日)
福岡会場 2003年11月30日(日)

時間 10時より16時まで

第11回札幌皮膚病理セミナー ～Melanocytic lesion-色素細胞性病変のすべて～

日時 2003年9月6(土)、7日(日)

悪性リンパ腫診断マニュアル 販売中

皮膚B細胞リンパ腫の病理診断(2003,1,18)で使用されたハンドアウトを販売しております。

1部 2,270円(送料込み)

◆ お知らせ ◆

皮膚科の日常診療の参考になる、Carenet TVのビデオ貸し出しを行っております。ご希望の方は当研究所までお申し込みください。

～各種お申込・お問い合わせは当研究所まで～
札幌皮膚病理研究所
〒001-0018

札幌市北区北18条西3丁目21-793
TEL 011-756-4810 FAX 011-756-4842
E-mail office@sapporo-dermpath.com
Website www.sapporo-dermpath.com

What's new?

皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座札幌会場 開催
(8月10日)

北海道大学臨床大講堂にて皮膚外科手術に必要な手術方法や切除範囲を考えるためのセミナーを開催いたしました。



皮膚病理研修生来所 松本一仁先生、岡本 武先生
(8月4日~8月10日)

皮膚病理研修のため、2名の先生が来札されました。



手前左; 松本一仁先生 (国立弘前病院)
手前右; 岡本 武先生 (海上自衛隊潜水医学実験隊)

7月皮膚病理報告書作成件数 新記録更新!!

7月1か月間で札幌皮膚病理研究所で作成した皮膚病理報告書の件数は1,855件で、今までの記録1,810件(2003年3月記録)を超え、新記録となりました。

2003年発表論文ご紹介①

- Desmoplastic Trichoepithelioma 8例の病理組織学的検討
- グロムス腫瘍の病理組織診断に有用な免疫組織化学的検索法について
- 再発を繰り返した血管芽細胞腫(中川)の成人発症例
- 後天性色素細胞細胞性母斑の病理学的随伴所見の検討
- Is This nevus "congenital" or "acquired"?

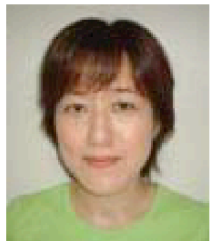
嘱託医の紹介

今回は当研究所嘱託医をご紹介します。
学会発表や学術論文などご協力いただいています。



Yukiko Kurasono
倉園 普子

札幌の生活も3年目に入りました。今はケラトアクトーマの総説、皮膚科学体系の執筆、皮膚病理学の基礎をやり直しています。やっと体が札幌の気候に慣れてきたので、ペースを崩さずにやっていこうと思っています。



Syoko Murasawa
村澤 章子

月に1回、研究所にうかがって、各種プロジェクトに参加させていただいています。研究所にある多数の病理組織標本、多種の疾患、充実した図書とコンピューターシステム、そして、木村鉄宣先生という優れた指導医一、皮膚病理を勉強するのに、これだけ充実した施設は(日本には)ないと思います。1人でも多くの方に研究所の活動を知っていただき、利用していただけるよう、微力ながら活動していきたいと思っています。宜しくお願い致します。



Kayoko Okajima
岡島 加代子

2月に一ヶ月研修させて頂き、6月に学会発表、現在論文に取り組んでおります。豊富な症例数、勉強するための環境と、なにより木村鉄宣先生という素晴らしい指導医の元研修する機会が与えられたことを幸せに思います。多くの方々に、札幌皮膚病理研究所の活動を知っていただけるようお手伝いできたらと考えています。宜しくお願い致します。

2003年発表論文ご紹介②

- Touton型巨細胞の出現する皮膚疾患
- Poroid cell neoplasm 76例の病理組織学的検討
- 汗孔腫(Poroma) 25例の病理組織学的検討
- 角質嚢腫の形成機序一病理組織所見から推測した3つの機序
- 線状苔癬の成人例

詳しくはホームページ業績集にてご紹介しております。

皮膚病理検査を最大限活用するためのアドバイス

その②病理組織学的検査依頼伝票の書き方

生検で得た検体から最大限の病理情報を引き出すための上手な検査依頼伝票の書き方を考えてみましょう。同一患者から複数の検体を生検する場合は、一つの検体ごとに依頼書を書くことが理想です。

① 臨床病名を書く

疑い病名の列記でもよい。とくに炎症性皮膚疾患では必須です。

② 検査の目的を書く

臨床診断の確認、特定の腫瘍を否定したい、良性か悪性かの判断、腫瘍の取り残しがないか、などと具体的に書きましょう。

③ 臨床情報を充実させる

患者の年齢や性別、病変の部位と分布、個疹の形態などの臨床像、現病歴や既往歴は必須です。

④ 検体の切り出し方向を指示する(可能であれば)

紡錘形に腫瘍を切除する場合、長軸方向より短軸方向で腫瘍周囲の正常組織の範囲が狭くなるが多いです。従って一般には短軸方向で切り出すよう指示することが望ましいです。長軸方向に余裕がないときは、長軸短軸両方向への切り出しも必要になります。

また、悪性腫瘍を疑うときは特に細かな指示が必要となります。

「Monthly Book Derma, 41:41-46, 2000 外来診療に必要な皮膚科検査マニュアル 病理組織学的検査と病理組織診断 木村鉄宣」より一部改訂して引用

今後のスケジュール

2003,09,06~07

セミナー; 第11回札幌皮膚病理セミナー

Melanocytic lesion (色素細胞性病変) のすべて

場 所; 札幌皮膚病理研究所

2003,9,20

特別講演; 皮膚腫瘍性疾患の病理組織診断

所見の取り方と診断方法

第2回京滋難治性皮膚疾患研究会

場 所; 京都ホテルオークラ

2003,09,27~28

座 長; 第67回日本皮膚科学会東部支部学術大会C P C

場 所; 旭川グランドホテル

2003,10,05

セミナー; 皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座

場 所; 東京慈恵会医科大学大学1号館講堂(東京)